ニュース専修
●「専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月1回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3－8
☎03-3265-5819（直）

社会知性を羅針盤に

信じる道を凛として歩もう

▶大勢の列席者に見守られて＝日本武道館

2012年度卒業式・学位記授与式

千鳥ヶ淵周辺の桜がほぼ満開となった3月22日、2012年度専修大学卒業式・学位記授与式が、東京・千代田区の日本武道館で行われた。学部卒業生、大学院修了生、専門職大学院（法科大学院）修了生あわせて4408人が晴れの日を迎えた。

学位記、川島記念賞が各総代に贈られ、日髙義博学長が式辞を述べた。そのあと、卒業生、修了生を代表して小澤麻里奈さん（経済学部経済学科）が「かけがえのない友人に囲まれた4年間でした。これからも地道な努力を怠らず続け、目標に向かって進みます」と謝辞を述べた。

桜満開の日に　学窓飛び立つ

▶満開の桜に祝福される卒業生

冬の厳しい寒さに耐え、今年は桜の花も、はや満開となりました。ここ日本武道館において、平穏の中に平成24年度の卒業式および学位記授与式を挙行できますことは、うれしい限りです。東日本大震災から2年が過ぎましたが、社会の復興の道のりには、依然として厳しいものがあります。そうした状況の中で着実に研さんを重ね、所定の学位を取得された皆さんに対し、心からお祝いを申し上げます。また、式典に参列されているご家族の方々に対しましても、お慶び申し上げますとともに、被災学生支援のご寄付をはじめ多方面にわたるご支援、ご協力を賜りましたことに対し、心から謝意を表します。

神田キャンパスに復元されている黒門、生田キャンパスの創立130年記念館のアカデミーモールに据えられている、創立者の相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4先生の胸像、これらのモニュメントは皆さんの心の中にどう溶け込んでいるでしょうか。また、専修大学創立130周年記念映画『学校をつくろう』を見たときの感動は、息づいているでしょうか。

今年で134年を刻む専修大学の歴史は、決して平坦なものではありませんでしたが、建学の精神を基軸として、今日まで約26万人の卒業生を輩出してきました。創立者たちは、強靱な精神力をもって明治維新の動乱の中を生き抜き、太平洋を渡って米国に留学し、海外から祖国日本の国の形を考えました。

そして、約8年の留学を終えて帰国し、社会の屋台骨を支える有為な人材を育成するという熱き思いで、専修大学の前身である「専修学校」をスタートさせました。創立者たちの熱き思いは、専修人に綿々として受け継がれ、本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」の中にも生きています。

「社会知性の開発」は、本学の創立の原点に立ち戻り、創立者たちの熱き思いを21世紀に花開かせるためには何をなすべきかという観点から設定されたものです。「社会知性」は、自ら問題を発見し、それを主体的に解決する知力であり、卒業生は、在学中に身につけた社会知性を羅針盤として社会貢献を果たさなければなりません。「社会知性の開発」の実現は、卒業生がいかに社会貢献を果たすかに掛かっています。

行く先の見えない今日の社会状況からすれば、これからの人生行路にあっては、予期しない厳しい局面に遭遇することもあるでしょう。しかし、皆さんは、在学中に身につけた社会知性と専修人としての自覚によって、必ずや行く手を切り拓くことができるでありましょう。在学中に学んだことは、すぐには役に立たなくとも、人生の節目、節目に光を放ちます。明日の専修大学の歴史を作るのは自分たちだという気概をもって、学窓を飛び立ってください。

社会の屋台骨を支えるには、知力だけでは形になりません。人との協働が必要ですが、人を説得し、人を動かすには、豊かな人間性と確たる倫理観がなければなりません。常に自己を省察し、人格を磨いていくことが必要です。

人生の生き方の指針に何を据えるかは、人それぞれでありますが、創立者の一人である田尻稲次郎先生は「士魂商才」という揮ごうを残されています。田尻先生は財政学の根底に修身を据えられていましたし、大蔵省や会計検査院などに深く関わられたことを考えると、「士魂商才」という言葉には重みがあります。

また、目賀田種太郎先生は、「礼節の軌道を離る可からず」という言葉を残されています。相馬永胤先生にしろ、駒井重格先生にしろ、その生き方にサムライ・スピリッツが染みこんでいます。

利害や打算ではなく、信義や礼節を弁えて物事を処し、そして自分に課せられた責務を粛々と果たし、そこはかとなく光を放つこと、このような生き方を専修人の先達たちは示しています。このことが、「人の専修」と言われるゆえんです。

東日本大震災では、本学も校舎などが損傷し被害を受けました。現在では、キャンパス構想の練り直しも終わり、創立140年までにキャンパス整備を完了することになっています。すでに、神田キャンパスでは新5号館、生田キャンパスでは国際交流会館の建設が始まっています。

今後、大学改革の進捗とともに、神田キャンパスの顔も大きく変わることになります。専修大学の第5世代に属する私たちの責務は、創立150年に向けての確たる基盤を築くことにあります。学窓を飛び立つ皆さん、それぞれの夢の実現に向け、自分の信じる道を凛として歩いてください。専修大学で学んだことに誇りと自信を持ち、社会に大きく貢献されんことを期待し、第15代学長の式辞といたします。

（要旨）

学長式辞　日髙　義博

信義・礼節を弁えて
社会貢献を果たす

主なニュース

学部長・大学院研究科長・法科大学院長の「贈る言葉」……❷
川島記念学術賞・体育賞・奨励賞受賞者……❸
定年退職される先生方のメッセージ……❹
卒業式・学位記授与式写真特集……❺
卒業生・修了生が振り返る「専大の思い出」……❻❼
石巻専修大学 学位記授与式／川島記念学術賞受賞者……⓮

テレホンサービス
（お知らせ・緊急連絡）
0180-994-994
本紙へのご意見をお聞かせください
koho@acc.senshu-u.ac.jp

社会知性の開発をめざす
専修大学

専修大学マスコット「センディ」